

# 心の真実を追究したい

○…「今、世界各国で心 いたい」。浄土真宗西本願を乗り越え僧侶となった。の問題が軽視されている。寺で外国人として初めて修 現在では日本とポーランドで多くの人に自分自身の心を 行を積んだ。難解な仏教用 仏の教えを説いている。見つめる時間を持ってもら 語をはじめとする言葉の壁 ○…第二次世界大戦のさ

# 人物風土記

題字は  
中田宏横浜市長



●ポーランド生まれの浄土真宗僧侶

## アグネス・エンジェエスカさん

下田町在住 62歳

中、ポーランドでカトリックの家庭に生まれた。戦後、共産主義政権によって家族の財産が奪われ、母は慣れない仕事に従事することに。「家族はとにかく現実を受け入れようと努力していました」。高校生の時、母から医者になることを勧められた。「これからの時代、女性も経済的・社会的に独立しないといけない」

談できずにいた。「生活的には安定していましたが、何か満たされなかったです。ね」。その時出会ったのが仏教だった。「私が求めているものはこれだと直感しました」。下田町の光輪寺の住職であるご主人と出会ったのもその頃。50歳を過ぎていたが結婚を決め、母国も医者への地位も捨て来日した。「つらい別れもしました」

○…大学は医学部に進み、脳神経について学んだ。猛勉強の末、博士号を取得。臓器移植の手術にも立ち会った。だか、その頃から「人の死」について悩むことになる。「脳死状態の患者に対して、医者の私が診断書に『死亡』とサインすればその時点で死んだことになる。自分の死を他人が決められているのがおかしいと思っただけでなく、4年前からは外国人同派僧侶の会の会長として講演や執筆もこなす。しかしどんなに忙しくお経を読む。「これからは心の真実は何かを追い求めいきます」